

3. 農村分野

第3節 市民交流による田園都市・おごおりの推進

1. 農業・農村の有する生産及び多面的機能に対する市民の理解の促進

(1) 農業・農村に関する情報の提供

○農業・農村の持つ多面的機能について、行政等のメディアを活用し、情報発信を行い、市民の理解と交流の促進を図っていきます(収穫情報や農業の営みから生まれる農村風景、地域の祭り、伝統行事等)。

評価指標	現況年度	目標年度	達成度
目標の内容	現状値	目標値	最高値
q. 農業・農村との交流イベント情報を提供	H 2 6 年度	R 6 年度	R 元年度
○農業・農村交流イベント情報提供数	4 回	2 0 回	7 1 回

実績:27～元

○市広報や市フェイスブック等の SNS において、農村風景の写真や本市農産物、イベントに関する記事を掲載・シェアし、PRに努めた。
また、マスコミ各社へ積極的にイベント等のプレスリリースを行った。

○地域おこし協力隊SNS(令和元年度)

(1) 地域おこし協力隊による農業体験記

今まで全く異なる分野を職業としてきた地域おこし協力隊が、農作業体験を通じて農家の現状や課題を知り、そこで感じたことを情報発信しています。

①【収穫体験:イチジク相手に四苦八苦/9月25日】

②【箱詰め作業で汗をかく/9月27日】

③【キヨミドリ収穫体験:特産品として全国に届け!/10月23日】(記事見出しの後の日付は、記事掲載日)



(2) 地域の農業に関するトピックス (記事の一例)

①【しめ縄づくり、地元産の稲わらで気持ちよく新年を/12月27日】

御原校区コミュニティーセンターで27日、御原産の稲わらを使ったしめ縄づくりの教室が開催されました。参加者10人は、園芸福祉士の指導を受けながら、わらの一筋一筋を編んで円状に曲げてナンテンなどの赤い実をつけ、縁起物の亀のわら細工やしめ飾りをつくりました。



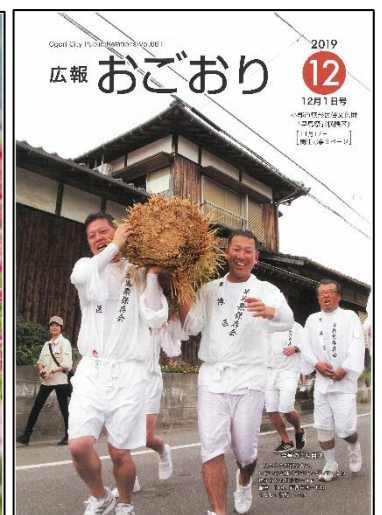
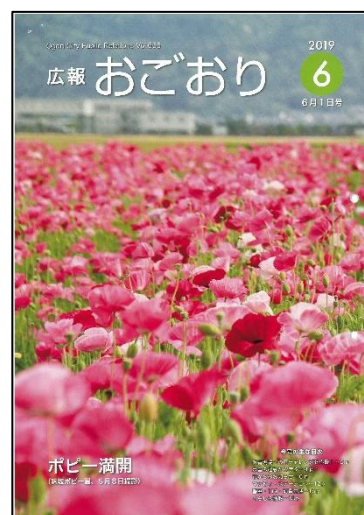
②【4月に満開、光行のチューリップ畑／3月19日】

光行の地域住民でつくる「水土里の会」が19日、4月に満開を迎えるチューリップ畑の草取りをしました。まだ蕾ですが、4月上～中旬に咲く予定です。

また、道を挟んだ隣の畑では同じく休耕地を利活用して活動する「味坂21の会」がポピー畑の草取りをしました。5月のゴールデンウィーク明けに咲く予定です。



○市広報・議会だより



農村風景や五穀豊穡など農業に起源を持つ祭事、良好な景観形成などの風景を、広報等の表紙に使い農業の多様性に関する側面を周知しています。

○市広報記事

令和元年9月1日号の「発見！おごおり遺産」は、「水と農業」と題し、農業に不可欠な水の確保をどのようにしてきたのか、その歴史的背景を追った記事でした。

現在の小郡の農業でも使用される堰やため池は、先人の努力の賜物であることが分かります。

豆田井手と関連する村々

発見！おごおり遺産

No.14 水と農業

小郡市の中心となる産業は農業です。農業は弥生時代に始まり、徐々に発展してきましたが、人々はさまざまな方法で水の確保に取り組んできました。

当時の豆田井手付近

池内孫右衛門翁之碑

(2) 農村（生産者）と都市（消費者）との交流の促進

○福岡都市圏等の住民だけでなく、市北部の住民についても、農業体験や農業関係イベント等を通して都市と農村との交流を図っていきます。

実績:30

○三井高校家庭クラブ委員会主催の災害料理教室に認定農業者の会が参加し交流を図った。

○災害食料教室

三井高校家庭クラブ委員会の研究活動のテーマ「地域とつながろう」の一環として、3月28日に「災害料理教室」が開催されました。災害で断水した場合、水を十分に使うことができないおそれがあることから、なるべく水を使わずとも煮炊きができる調理法があることを知ってもらうとともに、日頃お世話になっている地域の方々を招いて交流を深めようというものです。透明ビニール袋の中に、食材と水分（米と水、魚と醤油出汁）を入れて密封した上で、熱湯でゆで上げる調理法。また、食器への盛り付けに透明ラップを用いるために食器も汚れず、水を使う必要がないことから、災害時に有効活用できると考えられます。

今回の献立は、ご飯とサバの煮魚、蒸しパン。本企画のために認定農業者の会として米2kgを進呈したこともあり、小郡市健康を守る母の会と共に招かれました。

当日の様子は、福岡県防災賞受賞者（三井高校家庭クラブ委員会）を紹介する番組として、RKB毎日放送「福岡県庁知らせた課」の取材を受け、「災害について考えましょう～福岡県防災賞～」と題して、令和元年5月3日に放映されました。



【盛り付けもきれいにできました】

実績:元

○「小郡魅力化計画 2019」で結成された「まんぷくいもむし」が農産物を販売

○まんぷくいもむし

小郡市では、まちづくりに関心のある市民を対象に、地域の魅力を市民が共有し、追求することによって、地域の課題を昇華していくことができる計画を市民自ら計画していくまちづくり講座「小郡市魅力化計画」を主催しています。平成30年度は、農業関係では様々な研究や議論の結果、若手農業者によるチーム「まんぷくいもむし」を結成し、平成31年1月20日に「軽トラ市」を開催しています。

令和元年8月16日には、たなばた地域運動広場で開催された「七夕スカイランタン」の会場内で販売ブースを出展しています。これからも、農産物販売と交流を通じて、市民に小郡市の農産物の魅力を伝えるために精力的に活動を展開していきたいとのことです。



実績:27～元

○「JAみい農業まつり」において、牛乳・乳製品消費拡大消費者交流会を開催

○牛乳・乳製品消費拡大消費者交流会

毎年11月の第1土日に開催されている「JAみい農業祭り」で牛乳や乳製品の消費拡大を促進するために参加し、①牛乳の無料配布、②バターづくり体験、③ラップサイレージへの落書き、④のむヨーグルト販売を行っています。

○市民農園の利用を促進するとともに、関係機関・団体と連携して栽培講習会等を開催し、市民が農業と触れ合う機会を設けます。

○小郡市市民農園

小郡市市民農園は、陸上自衛隊小郡駐屯地の西側にあり、畑が全部で129区画あります。土とのふれあいや農産物を作る喜びを通じて、農業に親しみを持っていただきたいと考えています。

市は、市民農園を利用されている「小郡市市民農園利用組合」の活動をサポートしています。



2. 多面的機能を発揮させる環境整備の推進

(1) 農業・農村の多面的機能の維持・向上

○農業・農村の持つ多面的機能の発揮のため、多面的機能支払交付金事業を活用し、各地域における農地や農業用水利施設の維持保全の取り組みを支援します。

評価指標	現況年度	目標年度	達成年度
目標の内容	現状値	目標値	最高値
s. 多面的機能を発揮する環境整備を進めます	H26年度	R 6年度	H27年度
①農地維持支払交付金事業に取り組む組織数	27組織	29組織	27組織
②資源向上支払事業（共同事業） に取り組む組織数	H26年度 24組織	R 6年度 25組織	H27年度 24組織

○多面的機能支払交付金

農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的機能を有しており、その利益は広く国民が享受しています。

しかし、近年の農村地域の過疎化や高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下により、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。また、共同活動の困難化に伴い、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に対する担い手農家の負担の増加も懸念されています。



【資源向上(共同活動):光行チューリップ園】

この交付金は、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行って地域資源の適切な保全管理を推進することにより、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるように後押しする制度です。

平成26年度からの5年間（30年度まで）を1期として活動する団体を支援します。

「農地維持」は、農業者及びその他地域住民等で構成される活動組織（農業者のみの活動組織でも

可）が、水路の泥上げや農道の路面維持、草刈など地域資源の基礎的な保全活動のことです。

「資源向上（共同活動）」は、農業者及びその他地域住民等で構成される活動組織が、景観形成のための植栽や生き物調査など主に農村環境を保全するための活動です。

「資源向上（長寿命化）」は、工事を発注しなければならないような規模の大きい環境維持活動に対して支援するものです。小郡市内で取り組んでいる活動組織は10組織です。



【農地維持:道路補修】

3. 女性農業者の地位向上、男女共同参画社会の確立

(1) 女性農業者の地位向上

○女性農業者の企業を支援し、女性農業者の経営参画の機会の充実を促進します。

実績:27～元

○認定農業者の会による女性農業者の経営力向上及び男性農業者の生活力向上を図る取組を行った。

○パソコン講座

農林業センサスでは、女性が農業経営に携わっている農家ほど販売金額が大きいという調査結果が出ています。また、家族で営農されている農家は、女性が経理を担当していることが多いという現状があります。認定農業者の会では、パソコンでの経理処理やPOPづくりに役立ててもらえるようにパソコン講座を毎年企画しています。また、女性だけでなく、男性も参加できるようにしています。

実績:29～元

○認定農業者の会主催「男の料理教室」において、三井高等学校スイーツ部生徒と共に調理し、交流を深めた。

○男の料理教室

本市農業分野における労働環境は家族経営が多く、ライフスタイルが変化しても、農業に従事する女性は、家庭内の家事をも担う状況が未だに見受けられます。

こうした状況を改善するために、認定農業者の会では、男性農業者が料理を学ぶことができる場を設けることで、男女のワークライフバランスを考える契機にするようにしています。

29年度からは、三井高等学校家庭クラブ委員会からの地元の方々との交流事業を行いたいとの意向を受けて、小郡市健康を守る母の会と共に、認定農業者が持ち寄った食材と一緒に料理し交流を深めました。



実績: 28~29

○「女性農林業業者の活躍促進事業」を活用

○女性農林漁業者の活躍促進事業

県は、「若者・女性が活躍する農業づくり推進対策」として、「本県農業の振興に向けた経営能力に優れた担い手の育成と競争力ある産地づくりのため」に「福岡県経営技術支援対策事業」を行っています。

本事業は、女性の視点や発想を活かし、能力発揮に向けた取組を行う女性農業者を支援することで、農業経営の発展を図ることを目的としています。平成27年度からの県の単費事業です。

本事業のメニューのひとつに「女性農林漁業者の活躍促進事業」があり、「新商品開発支援事業（28年度まで）」、「機器整備支援事業」、「商品改良支援事業（29年度新規事業）」といった複数の事業があります。

平成28年度に三沢の女性農業者（土地利用型）が新商品開発支援事業で麴納豆を開発、29年度に三沢の女性農業者（イチゴ）が商品改良事業でふるさと納税などの贈答用に丈夫で品のある発送用紙袋やパンフレットのデザイン作成をされています。



【パンフレット】



【発送用紙袋】

○家族での農業経営において就業条件等の取り決めを行う「家族経営協定」の締結を推進し、女性農業者を含む家族みんなが主体的に経営に参画できるよう努めます。

評価指標	現況年度	目標年度	達成年度
目標の内容	現状値	目標値	最高値
t. 家族経営協定締結数を増やします	H26年度	R6年度	H29年度
○家族経営協定の累計締結数	21件	56件	32件

実績:元

○平成30年度農山漁村女性活躍表彰の女性地域社会参画部門
「優秀賞(経営局長賞)」受賞農業者を市広報で周知

○農山漁村女性活躍表彰

農山漁村女性活躍表彰

は、農山漁村男女共同参画推進協議会が事務局となり、女性が農山漁村でいきいきと活躍できる環境づくりに資することを目的に、農林水産業及び農山漁村の活性化、農林水産業の経営や政策・方針決定への女性の参画推進、次世代リーダーとなりうる若手女性の農林水産業への参入など女性活躍推進のために優れた活動を行っている個人や団体の方々を表彰しています。

表彰は、「女性地域社会参画部門」、「女性起業・新規開拓部門」、「家族経営女性参画部門」、「女性活躍法人部門」、「女性登用・組織参画部門」、「若手女性チャレンジ部門」の6部門あります。

受賞されたのは、現役の小郡市農業委員でもあり、小郡市食料・農業・農村政策審議会副会長でもある草場農園の草場小夜子さんです。受賞後の周知を市広報で行っています。



農業分野における男女共同参画 誰もが働きやすい環境づくりのために

市は、すべての労働者がいきいきと働くことができる職場づくりを実現するため、農業分野の経営や政策・方針決定への女性の参画を推進しています。家族で経営を行っている農業者も多いことから、女性が男性と対等なパートナーとして活躍できる環境づくりを行っていくことが重要です。

こうした中、市内で農業経営を行う草場小夜子さんが、平成30年度農山漁村女性活躍表彰の女性地域社会参画部門で「優秀賞(経営局長賞)」を受賞しました。積極的に女性農業者の経営参画を推進する草場さんに話を伺いました。



草場小夜子さんの主な活動

昭和51年	結婚を機に就農
昭和55年	生活改善グループ「ひまわり会」(～現在)
平成 8年	家族経営協定(夫婦) 福岡県女性農業アドバイザーに認定 (～13年)
平成16年	認定農業者となる
平成17年	独自ブランドの開発
平成21年	小郡市男女共同参画社会推進審議会委員 就任(～26年)
平成27年	小郡市農業委員会委員就任(～現在)
平成29年	久留米地区農村女性グループ「アグリレ ディース・まどか」会長(～現在)

夫は相談役であり、助け合えるパートナーであり、そして良きライバル

Q. 経営参画のきっかけは？

夫が洋ランの切り花栽培を始め、私も経営のパートナーとして栽培や経営管理に携わるようになりました。その後、独学で「ミニポットカーネーション」を栽培し、次第に担当をもつことにやりがいを感じるようになりました。

Q. これまでの活動は？

県久留米普及指導センターの指導のもと、市内の専業農家女性で結成した生活改善グループ「ひまわり会」で勉強会を行ってきました。平成8年からは、県の女性農村アドバイザーを務め、他地域のリーダーとの交流の中で、男女共同参画の学びも深まりましたね。

Q. 経営する中で工夫したことは？

現在、13人の従業員のうち9人は女性。休憩所やトイレを設置したり、勤務時間を幼稚園の時間に合わせたり、女性も働きやすい職場づくりを行っています。平成16年には、ハウス内の出荷調整室をバリアフリー化し、作業効率を考えた設計にしました。

Q. 家族の反応は？

夫の理解があったことはとても大きいです。夫は相談役であり、助け合えるパートナーであり、良きライバル。感謝しています。

Q. 今の活動で感じることは？

農業委員の活動は、農業の重要な部分に関わっている実感があり、大変勉強になっています。今後は、女性の経営参画を含め、後継者育成にも関わっていききたいですね。

おごおり女性ホットライン
☎092-513-7337

月～金曜日/午前10時～午後5時
(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談してください。

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに、専門の相談員が対応します。

広報おごおり R1・5・15 ⑧

(2) 女性農業者の地域における意思決定の場への参画促進

○農業委員をはじめとする農業政策の意思決定の場における女性農業者の登用を促進します。

評価指標	現況年度	目標年度	達成年度
目標の内容	現状値	目標値	最高値
u. 農政関連委員会等への女性登用率の向上	H 2 5 年度	R 6 年度	H 2 9 年度
○市が委嘱する 農政関連委員への女性の登用率	2 8 . 6 %	3 6 . 0 %	3 1 . 5 %

※○小郡市食料・農業・農村政策審議会

○小郡市食と農の複合施設調査研究委員会

○小郡市人・農地プラン検討委員会

○小郡市農業委員会、以上の4つの委員会より算出

